

視覚による高齢者の食嗜好に関する調査

著者名(日)	品川 弘子, 吉田 光一, 哥 亜紀, 柳瀬 昌弘
雑誌名	紀要
巻	VOLN6
ページ	77
発行年	2014-03-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1345/00003390/

学会ポスター発表

日本食育学会 (2013年5月18日・19日、東京聖栄大学)

食医同源之会の活動報告(その2)

○渡邊悟¹⁾ 中野慶子²⁾***

¹⁾東京聖栄大学、²⁾一般社団法人食医同源之会、***北海道文教大学

要旨

【目的】第4回の本学会において、(社)食医同源之会の活動報告を実践活動中心に発表したが、ここでは4回にわたって開催した勉強会について報告する。

【内容】

第1回：2010年3月7日 「食育活動の実践について」－葛飾区内の実践－

第2回：2011年3月6日 「東京都における農業教育の可能性」

第3回：2012年3月4日 「食生活力の向上について」

第4回：2013年3月3日 「和食が無形文化遺産！」

上記勉強会はいずれも、若溪会葛飾支部主催、若溪会本部後援、(社)食医同源之会協賛で若溪会館において開催したものである。

【考察】毎回、シンポジウム形式でディスカッションをしているが、かなり深く議論が出来ており、参加者は少ないものの好評である。今後も時流にあったテーマで議論を重ねて、啓発活動に結び付けていきたい。

学会ポスター発表

日本食育学会・第7回学術大会(2013年5月18日・19日、東京聖栄大学)

視覚による高齢者の食嗜好に関する調査

○品川弘子 吉田光一 哥垂紀 柳瀬昌弘

東京聖栄大学健康栄養学部

要旨

【目的】高齢者の食欲不振やPEMの改善を目的に、視覚的観点から感じる食卓の印象を調べた。【方法】トレーやテーブルクロス、ランチョンマット等を想定し、12色の食卓の色(黒および白を含む)に一汁三菜の「和風料理」「洋風料理」「中国風料理」を組み合わせて撮った写真を用いて、官能評価を行いSD法により評価した。パネルは40人(65～80歳)とし、平成22年2月に東京聖栄大学・官能検査室で実施した。評価項目は両側に反対語をなす形容詞対を5語に総合評価を加えた。統計処理は計算ソフト・エクセルを用いた。【結果】和洋中のいずれの料理形態においても、白が最も好まれ、黒が最も好まれなかった。白は清潔・高貴・明るいなどの正の固定的抽象概念が強く、黒には不潔・不安・暗いなどの負の固定的抽象概念が影響していると考えられる。嫌いな色は、紫や茶、青であった。好きな色に挙げられた黄、薄桃、橙、薄緑は、明るく、おいしそう、体によさそうと評価された。食卓の色調が食嗜好に及ぼす影響が大きいことが示唆された。食育的観点から、高齢者の視覚を生かす食卓の色調を構成することが重要であると考察された。